

企業名： リンテック株式会社

レポート名： 結合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

リンテックは長期ビジョンとして「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (LSV2030)」を掲げており、「イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する」ことを基本方針とする。その重点テーマとして、①社会的課題の解決、②イノベーションによる企業体質の強靱化、③持続的成長に向けた新製品・新事業の創出、を挙げている。

「社会課題の解決」については、ESG や SDGs への取り組みなどを通じて、脱炭素社会や循環型社会への貢献、働き方改革、多様性の尊重、情報開示や株主・投資家との関係強化によるガバナンスの向上等が目標として掲げられている。

「イノベーションによる企業体質の強靱化」については、DX による設計・開発、製造、物流、業務プロセスの変革の推進による競争優位性の確保、事業・製品の見直しや構造改革による経営の健全化が方針として挙げられている。

「持続成長に向けた新製品・新事業の創出」については、エレクトロニクス、エネルギー、サーマル、資源・エミッション、3R などを中心とした社会的課題の解決に寄与する製品の開発推進、メイド・イン・マーケットの考えに基づく製品づくり、が方針とされている。

総合的に、ESG や SDGs への取り組みを通じて企業の社会的責任（CSR）を重視することで、財務以外の部分でも社会的に評価される企業となることを目標としていることが長期ビジョンから読みとれる。また、達成のために課題となる部分、項目ごとの具体的取組みなども詳細に記載されており、リンテックが目指す将来的な在り方を理解するには十分なものと印象を受けた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

リンテックは「成長を支える3つの強み」として、①粘着製品の一貫生産体制、②幅広い分野での独自の地位、③海外市場への積極的展開、の3つを挙げている。

「粘着製品の一貫生産体制」では、主力である粘着事業において、粘着剤の開発・塗工から粘着製品のベースになる表面基材の改質加工に渡る一貫生産体制により、品質、コスト、納期面での優位性を獲得している。また、自社製品の特性を最大限に引き出す関連装置の開発・生産も行っており、「素材と装置のトータルソリューション」を提供していることを強みとしている。

「幅広い分野での独自性」については、リンテックは6つの事業部門として、印刷・情報材、産業工材、アドバンストマテリアルズ、オプティカル材、洋紙、加工材、を挙げている。

カラー封筒用紙、ラベル用粘着製品、半導体関連粘着テープなど多岐に渡る製品、ニッチな市場での高シェア、顧客ニーズに合わせた多品種、小ロット、短納期対応によって独自性を築いている。

「海外市場への積極的展開」では、顧客に寄り添った開発・生産・販売活動を行う「メイド・イン・マーケット」の考え方を基本とし、15の国と地域に約40の連結子会社と、約5000人の連結従業員を有し、海外売上高比率は50.2%（2021年3月期）を記録している。

以上のような記載から、リンテックの強みが、ニッチな市場である中間消費財において広範な製品の提供、その製品の一貫生産体制、そして国内外市場を問わず顧客ニーズに寄り添った事業活動にあることが読みとれる。例えば、ラベル用粘着フィルムは企業の製品の販売活動において必要不可欠なものであるし、半導体関連粘着テープは昨今のデジタル化によって急速に普及が進むデジタル製品に必要不可欠である。実際、この2つがそれぞれ含まれる、印刷・情報材、アドバンスドマテリアルズは部門別売上において、リンテックを牽引していくことが予想されている。他の分野も、売上高こそこの2部門には及ばないが、ニッチな市場における高品質かつ顧客ニーズに寄り添った製品は各市場で独自性を獲得しており、その意味では競争優位性を持つといえるし、広範な製品を手掛けている点自体にも企業として優位性を見出せる。

また、以上のような内容を「経済的価値の創出」としつつ、環境、社会、ガバナンスなどに関する「社会的価値の創出」も価値創造として掲げている。LSV2030にもある通り、リンテックは社会的評価を非常に重視した事業活動を方針として掲げている。環境や人権、働き方、業務体制などの企業の経済的側面以外も、投資家・株主、ひいては企業側に重視される昨今の情勢を踏まえると、社会的価値も経済的価値と並ぶ1つの競争優位性となっているのではないかと考えられるため、リンテックの優位性を支える柱になると考えられる。

結合報告書からは以上のような競争優位性が読みとれた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

社会的価値に関しては持続性があると読みとれる。LSV2030の1つの主要な指標となっているSDGsへの取り組みは、SDGs自体が2030年までの目標であり、おそらくその後も同様の目標が掲げられるであろうことを考えると、長期的に社会的価値を創出し競争優位性を保持・向上させるものだと考えられる。また、その取り組み内容も、環境という1つの項目をとっても、CO₂排出量削減、有機溶剤削減、ゼロエミッション、プラスチック削減など多岐に渡り、環境に配慮した設備への投資も積極的である点からも将来の持続性は期待できる。

経済的価値に関しては、4つの基盤技術の独自性や研究開発方針、人材教育・職場環境の重視が競争優位性の持続を支えていくと考えられる。特に、CSRとも関連するが、人材や職場環境を重視した方針は、優秀な人材の獲得又は育成に寄与し、基盤技術を基礎とした研究開発に好影響を与えられられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

リンテックは前述のように人材、職場環境を重視した方針を打ち出している。多様性と人権の尊重、働き方改革、労働災害ゼロ、事業継続への取り組みを通じて確保された良好な職場環境で自身の人的資本の価値向上に取り組めるように感じる。特に、コロナ禍に対応したテレワーク、フレックスタイム制度の拡大は、社会環境の変化への素早い対応による働きやすい環境確保の姿勢が窺える。また、従業員教育も全社階層別研修制度を中心として、法務や全社情報セキュリティのテーマ別研修、語学研修など多岐に渡り、充実した制度の中でスキルアップを図ることができるのではないかと感じる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

総じて、非財務情報の開示が非常に広範に渡る印象を受ける。企業が目指す姿、そのための具体的取組みが詳細に記載されており、「リンテックがどんな企業なのか」を理解する上で非常に有益に感じた。

改善点を挙げるとすれば、学生などの「将来世代」にとって関心の高い、人材・職場環境に関する情報をもう少し詳細にしても良いのではないかと思う。投資家にとって関心が高いであろう環境への配慮や製品の独自性に比して、人材・職場環境への取組みのアピールはやや弱い印象を受ける。項目ごとの整理方法を変えてみたり（例えば、創造価値を経済的価値と社会的価値の2つに分けたうえで、社会的価値を環境、社会、ガバナンスの3項目で分けて整理するなど）、単純に人材・職場環境への取り組み内容をより詳細に記載したりするなどしてより強いアピールができるとよいのではないかと思う。また、職場環境や研修などの写真やイメージ画像も、他の項目に比べると少ない印象を受けたので、ここも改善すると将来世代が見たときに自分が就職した先のイメージがしやすいのではないかと思う。